

文協

長崎県文化団体協議会

BUNKY

Cultural Information of Nagasaki

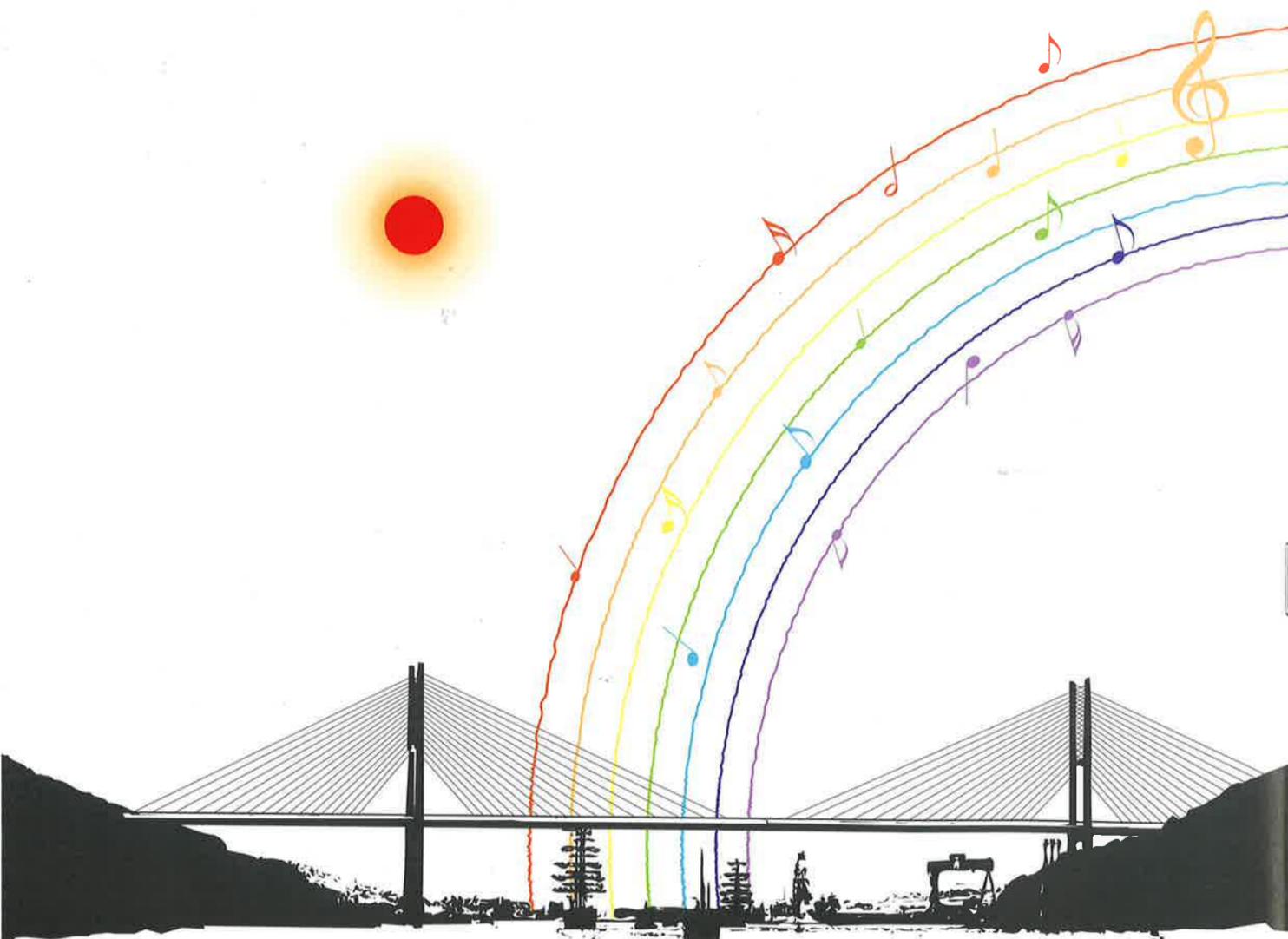
2007.5

67



特集 誌上ミュージアム

長崎県美術展覧会委嘱展



やつと、爽やかな風が陽を受けて、
 もっと、鮮やかに長崎を彩る季節。
 きっと、軽やかに伸びる美の軌跡。

長崎県文化団体協議会

BUNKY

Cultural Information of Nagasaki





02 特集 誌上ミュージアム 長崎県美術展覧会委嘱展

- ◎彫刻
- ◎日本画
- ◎工芸
- ◎洋画
- ◎書



08 地域文化の担い手

長崎県合唱連盟理事長 松川 暢男

10 郷土の芸術家公演

- ◎OMURA 室内合奏団ピアノ五重奏とベルギー王立美術館展
- ◎頑張っている郷土の芸術家と地元スタッフの感動と喜び
- ◎林田ひろゆきと「ZI-PANG」の世界

12 ウィーン楽友協会演奏会報告

ユール・アザレア指揮者 平野 かず子

13 第5回ながさき室内楽祭について

14 クレシェンド・シーハット大村だより

◎『天正遣欧少年使節ミュージカル』公演に向けて

15 春風ファミリーコンサート

島原市教育委員会 社会教育課 土橋 啓介

16 ながさき音楽祭2007

18 第35回長崎県新人演奏会

19 イベントガイド

- ◎NHK 日曜美術館30年展
- ◎青い目の人形と長崎瓊子展

20 第37回九州芸術祭文学賞

夢の第二楽章

夢をつかんだ11人による

第35回 長崎県 新人演奏会

日時 平成19年5月13日(日)
午後2時30分 開場 午後3時 開演

会場 長崎ブリックホール 大ホール

入場料 一般 1,000円 高校生以下 無料(但し、学生入場券が必要です。)

※入場券は、浜屋プレイガイド・絃洋会楽器店・ときつかナリーホール・県文化団体協議会などにあります。

主催/長崎県文化団体協議会 TEL.095-822-6049 長崎文化ジャンクションホームページアドレス <http://www.pref.nagasaki.jp/bunka/>

共催/長崎県、長崎市、時津町

後援/朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、テレビ長崎、長崎国際テレビ、長崎文化放送、長崎放送、NHK長崎放送局、FM長崎、ザ・ながさき、ながさきプレス

「家長」 松田 安生

尊厳と品格を有し、一徹を貫き通す意志の強い昔の父親を(観る人に)想像させる作品である。

難しい座像、コスチューム(着衣)の表現であるが、しっかりしたデッサン力と椅子の足をクロスさせた形(構成)で、重量感を効果的に表現している。また繊細な中にも力強い彫刻ヘラのタッチの跡は、モデリング(土付け)の探りの深さと、作家の粘り強い形の追求を感じさせる。

現代、失われつつある「父親の威厳」を問われ、作品の前で立ち止まり対話のできる内容のある、存在感の強い作品である。(桶本 寿)



「青春の肖像」 山崎 和國

足を組んだ何気ないポーズの座像。座椅子をシンプルにまとめ、その結果裸婦像がより主張されている。頭部から胸、腰、足の指先までゆったりと流れる量は、落ち着いた空間を作り出して静かな動勢を感じる。

具象彫刻の伝統を、ベテランらしい表現力で新しい息吹として感じさせる表現である。的確な写実力と密度の高い女性像に、清楚で凜とした緊張感を感じる。その中に若さと将来の夢、不安といった心情的な訴えが聞こえてきそうである。

(桶本 寿)

平成19年2月に行われた長崎県在住の優れた作家の200点の作品を展示した長崎県美術展覧会委嘱展。ここでは、その中から幾つかの作品をピックアップしてご覧いただけます。

Museum in Paper

Nagasaki Art Exhibition

Sculpture
Japanese painting
Craft
Oil painting
Writing

「春容」 吉澤 秀幸

広口の壺形陶器の表面に春の景色をデザインした作品。柔らかい陶土の曲面に直線を使った造形は甘くなりがちだが、この作品は、その技法の煩雑さを見せずにすっきりと爽やかにまとめている。

4～5年前までオブジェなど抽象的な作品を探求されていたものがこの直線に生かされているように思われる。

赤色や黄色、緑色など5色の色土を器の表面に象嵌された直線の風景は、若葉がまだ芽吹く前の春の草原の土や草の薫りがしてくるようだ。

(柴野 勝一)



「装い」 米原 佐代子

若い女性が春の風に吹かれて、何気無いポーズをとっている姿を人形の造形として表現している作品。

作者は、最近、人形の装いを洋服から和服に変えたと言う。その理由は日本女性の顔は現代人でも洋服より和服のほうがよく合うと思うからだそうだ。

長年、大和時代から江戸時代までの和服を研究してきた作者だが、この作品では、その研究の上に自分のオリジナリティをだす工夫を「帯の位置」や「襟元」に凝らしている。

胸から裾に広がる柳の葉が春風に吹かれてなびく風情は、初々しい若い女性のほのかな色香が感じられて爽やかだ。

(柴野 勝一)

「尾瀬の春」 眞島 チヨ子

尾瀬ヶ原の神秘的な感動を、心に描き、作品として、表現することのむつかしさに、四季を通じ、2度、3度と、足を運び、『尾瀬の春』が、生まれたと作者は言う。

至佛山から、湿原を蛇行して流れる、川辺の花ばなの風景に、5・6年前からの想いだったそうだ。

少し、欲張ったモチーフにも見えるが、雄大な至佛山の残雪も、水芭蕉も、そこはもう水墨画の世界である。

しかし墨の濃淡だけで、雪の白さ、水芭蕉の白さを、表現するのは大変な苦勞である。それでも、尾瀬の四季を楽しみ乍ら、描きましたと、氏は言い切った。

おとしより遥かに、若々しさを感じたのは水墨画への情熱からでしょうか。

(松尾 アヤ子)



J a p a n e s e p a i n t i n g

「夜トヒトリ」 松本 慈

物憂げに、何かを思い詰めている若い女性の姿であろうか？

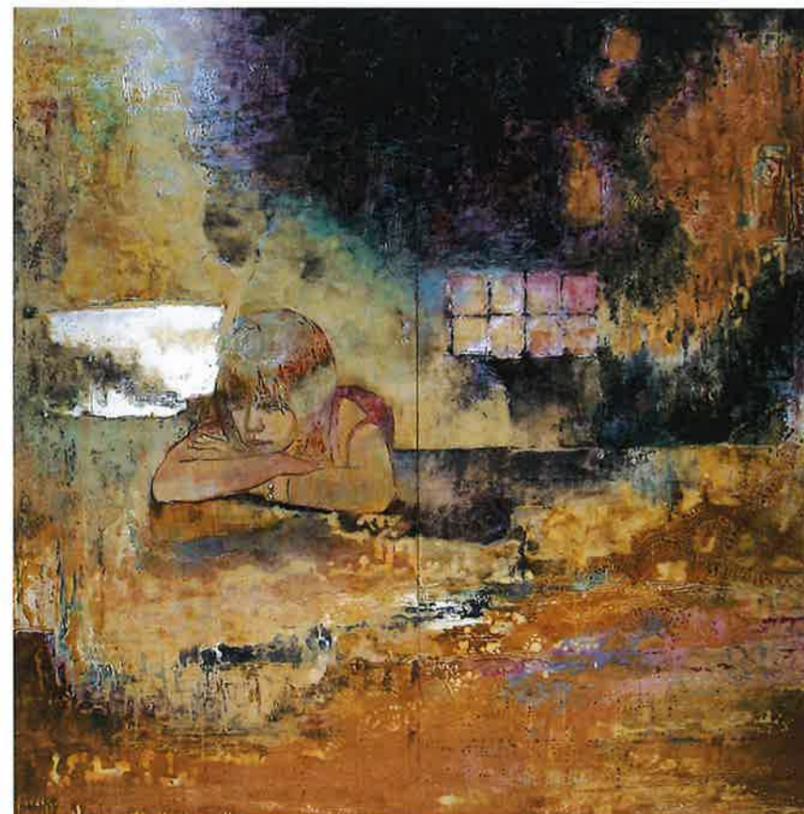
女性の周りにあるものは、窓以外に何もなく、ただ多くの色が交錯して、不安な空気が画面を包み込んでいる。若い女性は作家自身であろうか？

現在の混沌とした世の中。その中で生きている自分に押し寄せる焦燥感。然し目は一点を凝視して生きる強さを予感する。

日本画には、あまり馴染のない作風ですが、今後大いに期待する作家です。

「支えてくれる人に感謝の念をこめながら、色々な思いを包み込めるような空気を、絵の中に描き込んでいきたい。」とは作者の弁である。

(城 輝行)





「心の窓」

水田 陽峰

書は一般的に文字を素材とするが、同じく文字を素材とする文学美とは区別を明確にしておく必要がある。(一般的といったのは、文字を素材としなくても書は成立するからである。)書の鑑賞においては、まず純粋にその造形美に浸ることが肝要である。水田陽峰氏のこの作品は、それ自体完結したと思われる作品を二つ並べた、いわば二部の連作である。左側は強い線の結体が飛沫の撥ねた余白と相俟って明るく激しい空間を創っている。右側に目を移すと、紙面を覆う線というよりは面といったほうが適切かもしれない黒の一群に、何か押し潰されそうな重圧感を覚える。また洞窟の入り口みたいでもある。そういう二つの異質なものによる対峙、調和、反撥が複雑で多様な現代の感覚・感性の表現に迫ろうとする。そしてその黒と白の織りなす世界をどう観るかは、全て観る者に任されている。何が書いてあるかではなく、何を感じたかが大事な点である。氏はこの作品に「心の窓」と題している。左側は「心」字の甲骨文そのものである。タイトルにとらわれることもないのであるが、観る者がそれぞれの「心」を想い、「心の窓」を開け閉めできれば十分ではなからうか。

(近藤 幸成)

W r i t i n g

「自古山林有異人」

馬場 寛牛

篆刻(てんこく)は書部門において唯一筆と墨を使わない部門である。古代中国の印章芸術をベースに篆書体を書法に基づき印面に構成し彫刻したもので石印材という誰にでも細工のできる印材の発見から中国の文人達が好んで自用印を制作した事に始まるのが篆刻である。

「自古山林有異人」は王羲之の蘭亭叙に見られる句で、修行を積み徳を得た高士は山林に隠れているという意。

作品は、縦125ミリ横40ミリの長方形の印材に七文字が朱で表現される朱文印と言う手法で制作されている。印全体を概観すると各文字が扁平に作られあたかも隷書体の風格を持つ。落ち着いた文字群とは裏腹に印の輪郭右側に大きな変化(石の欠け)を作り動きと立体感を出した。更に細かく見ていくと細部に渡って刀痕が見られ線の動きと強さを出している。最後に最も着目したいのは書法に基づいた線の表現で起筆送筆収筆等が篆刻ならではの手法で表現されている。

書道における文字には、篆書、隷書、楷書、行書、草書とある。その中の篆書が篆刻に使われる。即ち、篆書が書けなければ篆刻はできない、というところに、書部門に属している所以である。

因みに馬場寛牛氏は、日展入選六回他中央展での実績は枚挙にいとまがない、県内篆刻界の第一人であることには違いないと思っている一人である。(坂田 緑楓)



「軍鶏」

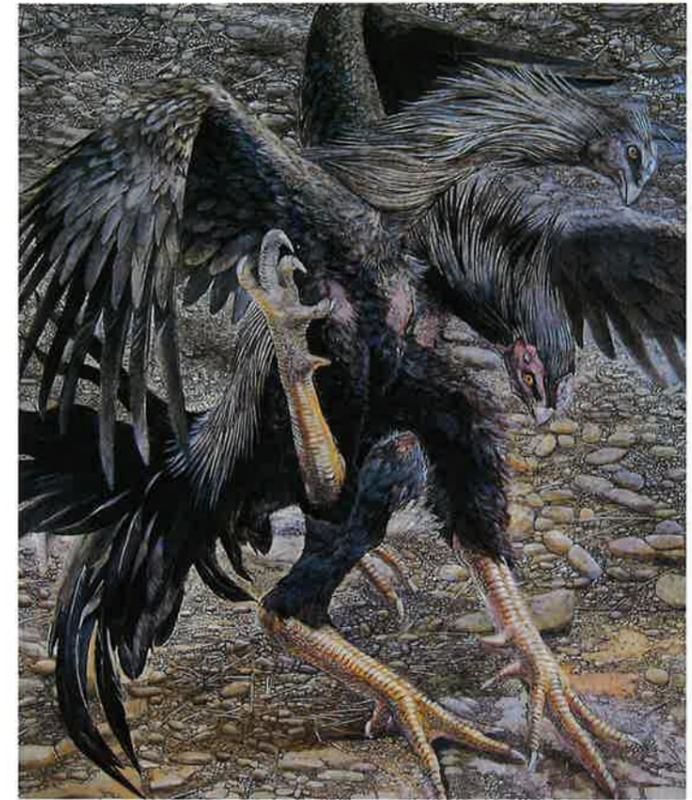
小川 富子

攻撃直後、飛び降りる一羽とそれを交わし反撃に移らんとするもう一羽の軍鶏の荒々しい戦いの一瞬を描いている。鳥たちは緑も花もない石ころだらけの大地で阿修羅のごとく描かれている。

戦うことを宿命として与えられ命の限りそれに従わされ生き続けなければならない様は現代の人の姿に他ならない。

すばらしい描写力と対象を追う目の動きがそのまま絵画上のドラマを創っている。

(笹田 末人)



「装い」

西本 親雄

トーンを押えた赤いゆったりとした肘掛け椅子に肩肘をつき、やや正面を見つめて物思いにふけている白いドレスの婦人像である。

ドレスの刺繍が室内に入り込む柔かい光を受けて様々な模様を作り出す。背景のカーテンや椅子がこの画面の中で人の肌の色やドレスの色を更に美しく染め上げている。この様な情景を眼にすれば人は素直に美しいと思ひ、この婦人は今何を想っているのか、と考えるだろう。さすがに巧者の筆力である。

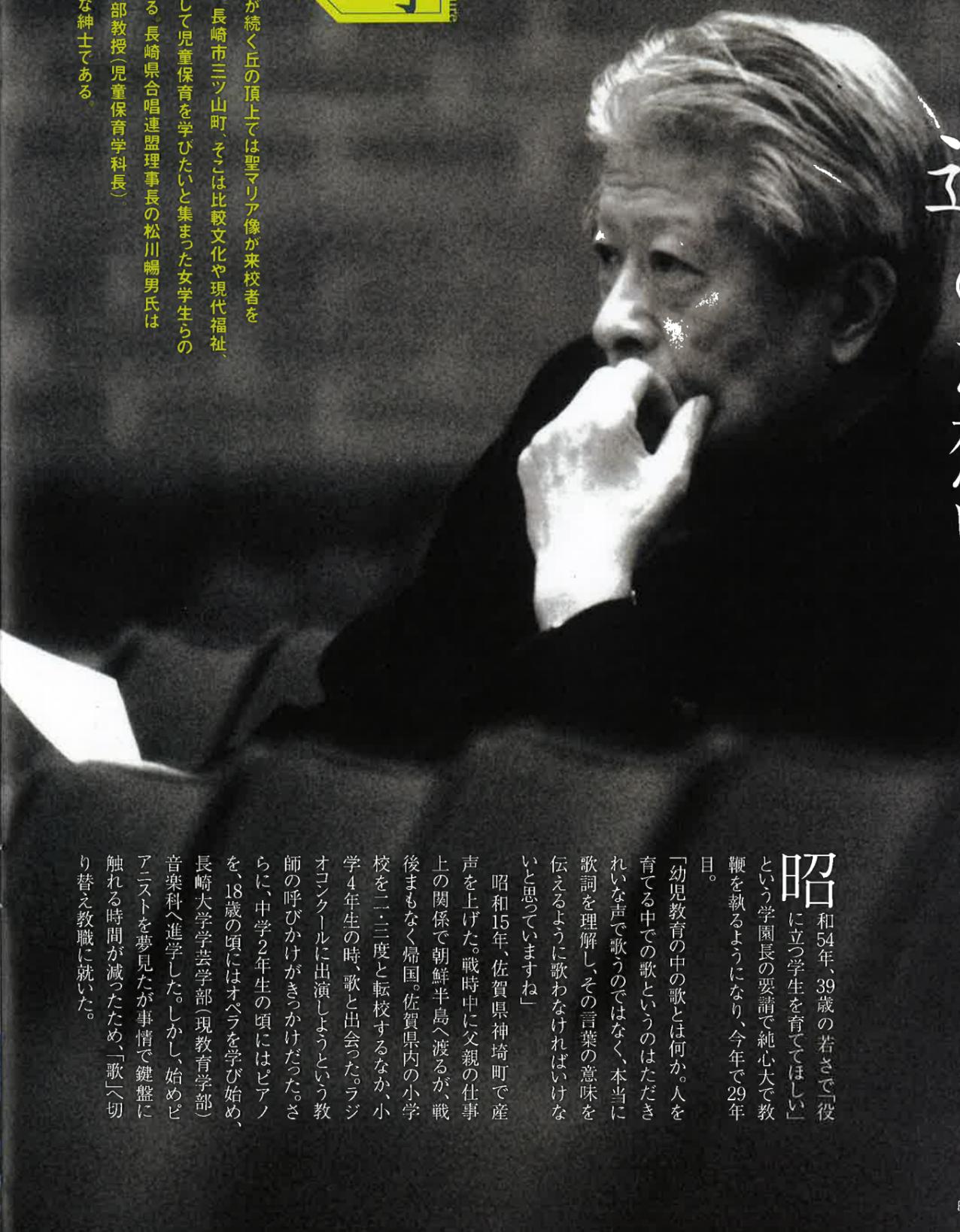
(笹田 末人)



タクトに込めた想い

長崎県合唱連盟理事長

松川暢男氏



小春日がこもれる桜並木が続く丘の頂上では聖マリア像が来校者をやさしく出迎えてくれる。長崎市三ツ山町、そこは比較文化や現代福祉、人間心理や英語情報、そして児童保育を学びたいと集まった女学生らの気品あふれる学び舎である。長崎県合唱連盟理事長の松川暢男氏はこの長崎純心大学人文学部教授(児童保育学科長)ロマンスクレーのダンディな紳士である。

「コーラスの魅力はいろいろな音楽や詩と出会うことができる、人とのブレンド、これはぶつかり合いながらお互いに何かを吸収できることがいいですね」

初

任地は長崎市立福田中学校。そして、同市立山里中学校へと赴任する。その年から高校入試から音楽などは外されたことで、「ほんものの音楽教育」を追究し始める。「単なる授業をするのではなく、その教室に音楽を響かせる教師を目指しました。学習事項である音符や記号を教えるのではなく、音楽そのものを感じさせること、それは人が人間らしく生きることとも直に結びつくことでもあり、やりがいのあることでした。そう思うと難しいことでもありませんが、教室そのものがコンサートホールのように楽しかったです」



山里中にはかれこれ13年間勤務、その間、NHK、KBC等の合唱コンクールで入賞を果たした。長崎県合唱連盟の第5代理事長になったのは平成6年。連盟のスタートは戦後間もない昭和22年。戦時中に童謡も教えてもらえなかった抑圧から解放感を求め全国にわたる合唱連盟が生まれた時代だった。初代理事長は伊藤英一氏。昭和34年には佐世保支部が独立し、長崎県理事長には長崎支部と佐世保支部が2年交代で担当することになり、その1年後には寺崎良平氏が第2代支部長になる。また、この年の6月、15団体が参加し長崎国際文化会館講堂にて第1回合唱祭を開催。それから、長崎市公会堂や三菱会館など場所を移し、参加団体が年々超えるなか毎年開催してきた。合唱祭が15回目を数える昭和49年には森元聰一郎氏が第3代支部長に就任し、この年より県ママ・コーラス大会が始まっている。日本中が高度成長の絶頂期で活気あふれる時代背景だった。

「これからも歌を通してより多くの人と出たい」

今年度は長崎県合唱連盟結成60周年。6月に開く記念合唱祭では全日本合唱コンクールで20年連続金賞を受賞した「京都エコー」を招いて盛大に開催する予定である。メインステージでは邦人作品中の名曲「水のいのち」(指揮 浅井敬壹氏)を披露するため日頃の指導も予断を許さない。

「今は昔と違い、コンクールには出ないが、演奏会を開き各団体が楽しむなど団体の個性が出てきています。しかし、パフォーマンスを取り入れ歌に動きが付き、より旨くなる時もある。反対に崩れる時もある。常に勉強することばかりですね」と分析する。

「今は昔と違い、コンクールには出ないが、演奏会を開き各団体が楽しむなど団体の個性が出てきています。しかし、パフォーマンスを取り入れ歌に動きが付き、より旨くなる時もある。反対に崩れる時もある。常に勉強することばかりですね」と分析する。

今

「好きな歌はいっぱいありますが、ルネッサンス時代の曲は気持ちがいいです。毎朝聴いていますが、他には日本を代表するような曲も好きです。何かを伝えられる歌はいいですね」と歌が持つ特有の説得力を論ずる。

「これからも歌を通してより多くの人と出たい。音楽というのは経



済的な力や政治的な力は弱いですが、心がほぐれ胸の中で温かい気持ちになります。また、自分が自分らしく生きていける力を持っていると思います。コーラスの魅力はいろいろな音楽や詩と出会うことができる、人とのブレンド、これはぶつかり合いながらお互いに何かを吸収できることがいいですね」

音楽という形に無いものを熱く語る眼の向こうには当時の8ミリを観ているような口ぶりで回廊をたどっていた。これからの音楽が担う真意をタクトに込め今日も振る。(栢)

「ホールにピアノってあるの？」「チェンバロってあるの？」「ないです。借りるんです！」みんなの驚きを隠せない質問を受けながら、コンサート準備は着々と進みました。

「ベルギー王立美術館展」を見ると、いろいろ音が聴こえる。シューマン、ロシア音楽、リユート、ヴィオール、ヴィオラ・ダ・ガンバ、ピアノ。特にベルギー出身の作曲家フランクやイザイの崇高なヴァイオリンの響きが展示室全体から薫る様に私には聴こえました。この素晴らしい展覧会に相応しい音楽を提供して下さったのが、OMURA室内合奏団。この色々な音が漂う展覧会を表現したい！私がおつける無理難題にマネージャーとライブラリアンは頭を抱えながら、曲目を選定し、ベルギー王立美術館展を「時代」という大きな流れで音楽を組み立てることに話はまとまっていきました。

私たちの思いが通じたのか、チケットは1週間前には完売！会場を埋め尽くす多くのお客様のことを考えると緊張して眠れなくなってきましたが、なんとか多くのお客様に感動を伝えたい、その一心でした。

当日、13時に1Fのエントランスロビーで行った無料プレコンサートは、天井の高いロビーに温かい陽だまりのように、また繊細に降り注ぐ月光のように弦楽四重奏の美しい和声が響き渡りました。チェンバロを初めて見る、聴くお客様はコンサートが終わった途

OMURA室内合奏団ピアノ五重奏とベルギー王立美術館展 (2月18日)

長崎県美術館総務広報グループ 建石久美子



エントランスロビーでの無料プレコンサートの様子。

端にチェンバロの周りにわつと集まり、目はみんな子どものようにキラキラ！16時からの展覧会の学芸員による作品解説は、担当の学芸員もびっくりするほど多くのお客様が熱心に食い入るように解説を聴いていました。やはり美術と音楽、芸術を愛する心は共通していますね。学芸員の絵の中に引き込むような詳細かつ熱のこもった作品解説によつて、あたかも各作品の主人公に自分がなっているような...そんな素敵な時間を過ごしたお客様たちは、いざコンサートへ向かいます。

17時からのコンサートは、純粹に音楽を楽しむために2Fホールでクロローズされたコンサート。不思議なことに、前日のリハ、当日のゲネプロと重ねるごとに「音に包まれる」感じが増してきます。ピアノソロ・ヴァイオリン&ピアノ、ピアノ三重奏、弦楽四重奏、ピアノ五重奏とバラエティに富んだ編成と、演奏する曲に関連した出口品作品をスクリーンに映し出すことで、音楽の多彩さのみならず美術との深い関わりをも感じられる。弦楽器ならではの響きを肌で感じ、間近で弓使いを見て、音の振動を体感し、複雑な和声の移り変わりに浮遊感にも似た快い感覚。そして「音に包まれる」。演奏者と聴衆、美術と音楽。相互が近くに存在することを感ぜられる瞬間を、今回來られたお客様が少しでも感じとって頂けているなら：私はやつと眠れます。

頑張っている郷土の芸術家と地元スタッフの感動と喜び

江迎町教育委員会 社会教育係 黒石 実

平成18年3月、教育委員会に配属。無から作り出す「イベント」の公演は、地元共演団体との連絡の不徹底からはじまり当初から難航した。

でも動き出すと意外と早く物事は進む、がチケットの売れ行きが悪い。

ワークショップでは、リーダーの林田さん一人が50人もの子ども達を1時間30分休憩なく実施。そのパワーと太鼓の思いが素人の担当の胸に突き刺さる。この郷土長崎の芸術家はすごい！！

子どもたちは林田さんにごんごん引き込まれて、うまくなつていくのだ。

本番。館内はほぼ満席だ。地元太鼓集団の演奏がはじまる。2つの団体(江迎町内の龍王太鼓・獅子舞太鼓)は、練習成果を十分に披露。大いにわが町の太鼓をPRしてくれた。

さてZI-PANGの登場。リハとは全然違う迫力だ。聴衆は演奏に酔っている。照明等の演出も加わってなんともいえない躍動感と美



圧倒的なテクニックで魅了し続けるスーパー和太鼓プロジェクト

ZI-PANGの演奏、瑞宝太鼓の演奏に大感動！感動の涙ができました！太鼓への気持ちや思いが伝わってきて元気をたくさん頂きました！最高でした！

アンケート結果が表すとおり、今回のZI-PANGの公演は大成功のうちに幕を閉じました。開場前から、多くの方々が行列をなし、会場は超満員でした。

第1部は雲仙市の「勤労障害者長崎打楽交流団・瑞宝太鼓」による演奏。知的障害というハンディキャップがありながらも、大好きな太鼓を打ちながら自らの可能性に挑戦し、社会との交流を深め、活発な活動を行っている瑞宝太鼓は、地域文化の振興に貢献したことが認められ、平成18年度県地域文化章を受賞されています。

瑞宝太鼓の演奏は、心を打たれるものがあり、まっすぐな心で打つ太鼓には、観客へ「感動」という言葉を与えてくれました。

林田ひろゆきと「ZI-PANG」の世界

雲仙市教育委員会 生涯学習課 主事 林田 慎也



第2部ではZI-PANGの公演。圧倒的なテクニックとグループ感、エネルギーが伝わってくるステージ、またトロンボーンとのセッションもあり、観客を魅了しました。

クライマックスではZI-PANGと瑞宝太鼓のジョイント。ZI-PANGのリーダー林田ひろゆき氏は、公演に向け瑞宝太鼓への指導ということで2回訪問し、瑞宝太鼓の皆さんは本公演に向けて練習を重ねてきました。息のあった迫力ある演奏に観客からは大きな拍手が沸き起こり、和太鼓の魅力が十分に堪能できた素晴らしいコンサートとなりました。



Chor Azalea

ウィーン楽友協会演奏会

憧れのウィーンの舞台に立つて

コール・アザレア指揮者 平野 かず子

ウィーン楽友協会大ホール・黄金の間は、世界中のクラシック音楽ファン憧れのホールとしてその名を知られています。

十九世紀後半に建立され、比類のない最高レベルの音響効果を持ち、内部は黄金色に輝いています。

その夢のようなホールで催されるウィーン市文化局教育部主催・ウィーン市後援・日本・オーストリア文化交流会運営の第九回「ウィーン楽友協会大ホール公演」に日本から推薦された四団体のうちの二つに「コール・アザレア」も選ばれました。

参加が決まってからの一年余り、「日本を、長崎を」のようにウィーンの人々に伝えることができるか……熟考し練習しました。

そして二〇〇七年一月六日がやってきました。長崎に因んだ「幻想曲長崎ぶらぶら」「蝶々夫人の幻想」「さくら」「金比羅船々」「お江戸日本橋」を着物姿で歌いました。



黄金の間の一階、二階、三階バルコニー席まで満席の会場から頂いた大きな拍手と笑顔の観客のなかで……親睦パーティーではウィーン本場の「美しき青きドナウ」などを歌い、最後に披露した「長崎の鐘」で会場は長崎一色に盛り上がったことも忘れられない大きな思い出の一つです。

最後になりましたが「コール・アザレア」に対し激励し送り出して下さいました長崎県知事、長崎市長、そして関係者の方々に深く感謝申し上げます。

個性豊かな調べが響く

第5回 ながさき室内楽祭について

室内楽の楽しさを
たくさんの方に伝えたい

エスプリ

池田 祐希 (ヴァイオリン)

トリアス

山田 芳美 (クラリネット)

アンサンブルソノールスクエア
後藤 秀夫 (フルート)

ながさき室内楽祭のオーディションから本番までの約半年間は本当にあつという間でした。オーディションでは緊張して縮こまってしまう「楽しくなさそう」と言われた私達も、先生方の楽しく貴重なレッスンを経験し、本番ではとても楽しく、今までで一番良い演奏ができたと思います。

先生方のレッスンを通して木管五重奏の難しさも痛感しましたが、同時に木管五重奏が好きになりました。ながさき室内楽祭に参加させて頂けたことで、たくさんの方々の貴重な経験ができ、espritは確実に成長できたと思います。ありがとうございます。

ピアノとのデュオを親友との語らい、オケや吹奏楽を大勢でワイワイ騒ぐ様子と例えるなら、さながら室内楽は、何人かの気のおけない仲間が時間を忘れて盛り上がるような、そんな感覚だ。それだけに、室内楽は楽しい。楽器同士の会話のようなやり取りは、たまらない魅力がある。

ひとつの楽曲を深く掘り下げながら作っていく過程で、数回のレッスンを受けてアドバイスももらえるのは、奏者にはとても心強くて、そして贅沢だ。

「こんな演奏はどうか」という提案を、言葉ではなく演奏で示してくれる。

それは一流の演奏家だからこそ、誰でもできることではない。

私共ソノールスクエアは全員社会人で居住地が点在している為、機会を捉え日程を調整しながらアンサンブルを楽しんでおります。又メンバー相互で話合い工夫しながら練習しておりますが我々のみでは進歩が限られます。この状況下、室内楽祭にて先生方のご指導を受け演奏の機会を頂いた事は多大な刺激になりました。

レッスンでは音楽の成り立ち・楽器の配合・奏法見直しなどもより、各奏者の創造性とグループの和が如何に大切かを体感した事は何者にも替え難い経験です。準備不足でピアノ審査時から寛大な処置を頂き、レッスンでは練習場を提供頂く等細やかなご配慮を賜りました。

今回の経験をバネに更に研鑽を積んで参りたく、事務局等関係各位のご支援に深く感謝します。



Nagasaki Chamber Music Festival

エスプリを指導する藤田 雅先生

演奏会 3月4日
アルカス SASEBO 中ホール
音楽監督 豊嶋 泰嗣
(桐朋学園大学大学院講師、ヴァイオリニスト)



「夢桜」公演(3月18日)



『天正遣欧少年使節』 ミュージカル 公演に向けて。

◎シーハット・ミュージカル劇団「夢桜」

発表会「ローマへの旅立ち」を終えて

昨年の6月から文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業の助成を受けて取り組んだミュージカル講座の仕上げとして、3月18日に発表会を行いました。

劇団員の菊池さんから指導を受けた戯曲講座9名の様々なアイデアが詰まったシンプスを川尻さんが戯曲にまとめ、演出も行いました。音楽講座3名は、6曲のオリジナル曲を初めて書き上げ、作曲家の上田さんのアレンジで仕上げてもらい、振付講座4名は、振付家の大原さんの指導の成果を個性豊かな振付として仕上げ、演技講座11名は、劇団員の指導に当たり、スタッフ講座の3名は、装置、音響、照明のプランニングや操作を行って、手作りのオリジナル市民ミュージカルを40分にわたってさくらホールで上演しました。

1月27日に公開ゲネプロを行い、菊池、大原の両講師に、駄目だしも頂き、また自分たちの反省も活か

財団法人 大村市振興公社 事業部 藤崎 澄雄

ての発表会は200名余りのお客さんの大きな拍手で幕を閉じました。そして、これからは、いよいよ8月の本公演に向け、本格的な稽古が始まります。

タイトルは、「天正遣欧使節ミュージカル・光る海へ世界史に日本を登場させた少年達」です。

戯曲講座の主婦宮崎さんによる戯曲を菊池さんの演出、上田さんの音楽、大原さんの振付そして、プロの創り上げる美術、音響、照明12時間に及ぶ本格的なミュージカルは、きっと素晴らしい感動となつて多くの観客に伝わり、シーハット市民ミュージカルを代表する作品として、今後も再演や各地での上演を目指して、ミュージカル劇団夢桜は日々稽古に励んでいます。

8月10日、12日の本番には、是非ご来場頂きますよう、団員一同心よりお待ち申し上げます。

また、この作品を通してあなたの町でお会いできることを楽しみにしています。

島原市教育委員会 社会教育課 土橋 啓介

みんなでつくった手作りの「春風ファミリーコンサート」

昨年の秋、文化振興課から島原半島地域の文化活動をリードする人の集まりを作りたい、というお話がありました。

島原半島というまとまった地域でそのような集まりができるのは喜ばしく早速それぞれの市で呼びかけをされ、「地域の文化リーダー養成講座」の第1回目が12月3日、国見文化会館(雲仙市)で開催されました。

最初は、皆さん講座の内容がどのようなものだろう、と興味と不安が半分のような感じでしたが、コーディネーターの堀内伊吹先生(長崎大学教育学部教授)がピアノを使ったレクレーションを行なって緊張をほぐしてくださり、それぞれ地域で活躍されている民間の方や行政の担当者はすぐに顔なじみとなつて和気藹々のうちに講座が進んでいきました。

この講座の特長は、ただ聴講するだけでなく実際に何かを作り上げようとすることで、2回目の2月4日、ありえコレジヨホール(南島原市)の講座では、実際に小浜ジャズオールスターズ(略称OJA)と長崎大学の皆さんの演奏を聴き、次回の講座でミニコンサートをどう行うか、を話し

合いました。

当初、ロビーコンサートの比較的小さな催しを考えていたものが、結局、OJAと長大のみなさん(ポッシブル)の出演の快諾を得、さらに受講者の山本さんの所属団体である北有馬のコルスアンジェリクスの出演も決まり、ホールを使ったちゃんとしたコンサート、題して「春風ファミリーコンサート」を開催することに決まりました。

この時点で時間は1ヶ月程度しかなかったのですが、受講者は手分けしてチラシ作成、広報活動等に当たり、3月11日、有明総合文化会館(島原市)で本番当日を迎えました。

ここでも、受講者が受付や舞台係など役割分担し実際運営に当たりました。準備期間が短かったにもかかわらず、約250名のお客さんが来場され喜んでいただきました。

今回の講座はたつた3回の講座でしたが、受講者皆でコンサートを作り上げるといふ素晴らしい経験をさせていただき、また、受講者同士の横の関係も出来、これも今後のそれぞれの財産となつたと思います。このような機会を作っていたいただきありがとうございます。

Spring Wind Family Concert 「春とともに」春風ファミリーコンサート



平成19年3月11日(日) 島原市有明総合文化会館(グリーンウェーブ)にて



ひと味違ったジャズ&クラシックコンサートを、大人から子どもまで楽しんだ春のひととき。



音楽祭を彩る
主な出演者

- 1 指揮：大山平一郎氏(大阪シンフォニカー交響楽団首席指揮者)
- 2 ピアニスト：伊藤 恵(東京藝術大学教授)
- 3 ヴァイオリニスト：豊嶋 泰嗣(桐朋学園講師)
- 4 ピアニスト：堀内 伊吹(長崎大学教育学部教授)
- 5 ピアニスト：井谷 俊二(活水女子大学音楽学部教授)
- 6 合唱指揮：松川 暢男(長崎県合唱連盟理事長)

育てる

音楽分野の
人材育成

作る

広範な参加と連携による
音楽祭づくり

楽しむ

県民が音楽を楽しむ
機会拡大

賑わう

音楽による賑わいのある
まちづくり

26本に及ぶコンサート、イベント、セミナー等

コンサート 15本	室内楽への誘い 10月26日(金)アルカスSASEBO	イタリア・カンパーニア合奏団 10月20日(土)アルカスSASEBO	音楽祭記念オーケストラ演奏会 10月28日(日)長崎ブリックホール	OMURA室内合奏団&輝きを秘めた星たち 10月20日(土)とぎつカナリーホール	
	美術館コンサート5公演	コーラスの祭典 長崎市公会堂	ギターフェスティバル 長崎市民会館	伊藤恵のトーク&ピアノ (佐世保市・長崎市)	ヤングマーチングパレード 佐世保市アーケード
イベント 9本	しまの教会コンサート2公演 新上五島町	ポエ・ファミリーコンサート 南島原市	木管五重奏の夕べ2公演 平戸市、鹿町町	樺島しおさいコンサート 長崎市	酒蔵コンサート 南島原市、波佐見町、江迎町
セミナー 2本	ながさき音楽塾 9月4日(火)~8日(土)活水女子大学	ジュニアヴァイオリンセミナー 6月23日(土)~24日(日)他 アルカスSASEBO	1講座 クラシック市民講座 長崎市		

協力

専門学習

演奏

連携

国内トップアーティスト

県内音楽家の潜在的な力

県、市町、文化関係機関
学校、音楽団体、報道機関

主催・共催・後援等

35年の歴史を持つ 長崎県新人演奏会

A 音楽祭記念オーケストラ演奏会

10月28日(日) 長崎ブリックホール

長崎
市

長崎ルネサンス!
この日、長崎に新しいオーケストラが誕生する
音楽祭を記念して結成されたオーケストラ、指揮は大山平一郎
と松川暢男。伊藤恵(ピアノ)・豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)・辻本
玲(チェロ)による三重協奏曲、堀内伊吹・井谷俊二によるピ
アノ協奏曲、記念合唱団によるメサイヤ合唱など、音楽祭フィ
ナーレを飾る。

B 室内楽への誘い

10月26日(金) アルカス SASEBO

佐世保
市

日本のトップアーティストによる
魅惑のアンサンブル

前半は県内ピアニストと木管奏者による五重奏。後半は伊藤
恵(ピアノ)・豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)・大山平一郎(ヴィオ
ラ)・辻本玲(チェロ)という贅沢なメンバーでのピアノ四重奏。
本格的な室内楽が堪能できる。

C イタリア・カンパーニア合奏団

10月20日(土) アルカス SASEBO

佐世保
市

イタリアの香り、ストリングスの響き

ヴァイオリンの故郷イタリアからの弦楽合奏団と長崎のソプラ
ノ歌手の華麗な共演。今回初来日、2002年結成された注目の
弦楽合奏団に佐世保出身のソプラノ歌手が共演。チェロの弾
き振りによるクラシックから映画音楽、オペラアリアなど、本場
の雰囲気気軽に楽しめる。

D OMURA 室内合奏団&輝きを秘めた星たち

10月20日(土) とぎつカナリーホール

時津
町

長崎には、こんなに素晴らしい
「若い人」と「音」がある
県内唯一のプロ合奏団・OMURA 室内合奏団をバックに、新
人演奏会に出演した9人(声楽・ピアノ・ヴァイオリン・ハーブ・
フルート)がソリストとして出演する。指揮は大山平一郎。

E 美術館室内楽コンサート

10月13日(土)
10月21日(日)
10月23日(火)
長崎県美術館

長崎
市

秋の夜長の美術館コンサート

人気のライブスポット、美術館エントランスロビーでちょっと遅め
の演奏会。プログラム前半は、新人演奏会経験者による声楽
とピアノによる演奏。後半は室内楽の優雅な演奏が楽しめる。
室内楽:13日はピアノと木管のための五重奏。21日はフルト
四重奏、23日はピアノ五重奏。大山平一郎が21日と23日ピオ
ラ奏者で出演する。



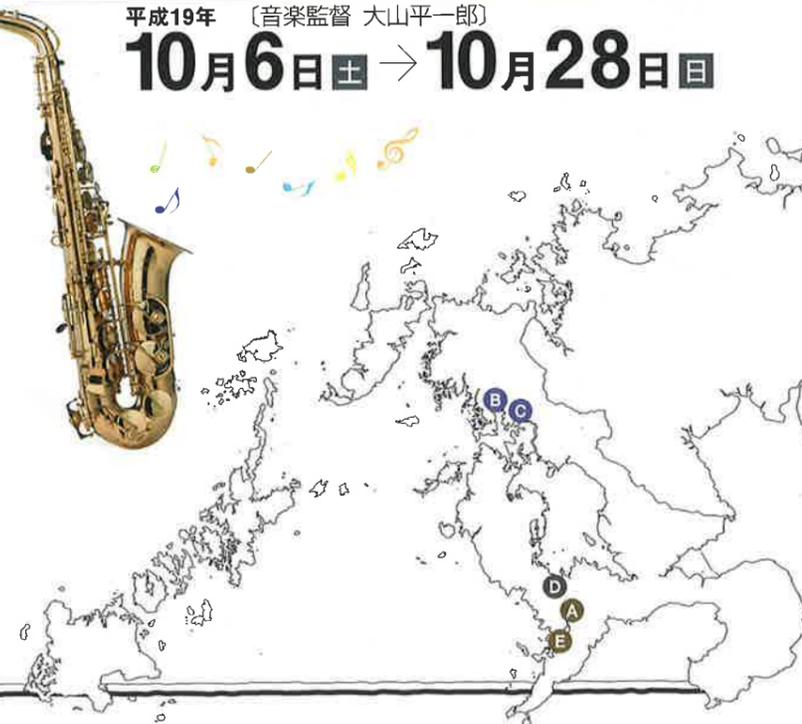
Nagasaki Music Festival

ながさき音楽祭2007

長崎からはじまる新しい音楽祭

平成19年 [音楽監督 大山平一郎]

10月6日(土) → 10月28日(日)



長崎県美術館

NHK **日曜美術館** 30年展
NHK Sunday Museum 30th Anniversary Exhibition

2007年5月26日(土) → 7月1日(日)

美術番組の草分け的存在である「日曜美術館」は、1976年の放送開始から1,500回を超える長寿番組です。毎回多彩な出演者が語る美術案内は、一般的な美術鑑賞とは異なる斬新な視点でファンを魅了してきました。その放送開始30年を記念して、今までの放送で取り上げられた作品・作家の中から厳選した名品を、懐かしい番組出演者が語る映像や、作家の制作風景など貴重な映像を交えながらご紹介します。

- 開館時間 午前10時～午後8時
(展示室への最終入場 午後7時30分)
- 観覧料 一般1,000円(900円) 大学生・70歳以上800円(700円)
高校生600円(500円) 中学生以下 無料
※()内は前売りおよび20名様以上の団体料金

夢の美術案内が、今、現実になる



高橋由一(鮭)重要文化財一八七七年頃 東京藝術大学 大学美術館蔵

長崎歴史文化博物館

「青い目の人形」をご存知ですか。学校の片隅で静かにたたずむその姿を目にしたことがあるかもしれません。このお人形、日米の親善交流を願い、昭和2年に日本中の子供たちに贈られたものです。12,000体の親善人形たちは各地で大歓迎を受けましたが、太平洋戦争によって大部分が処分される憂き目に遭い、現在ではわずか300体ほどが残るのみとなっています。本展覧会では、北海道から九州まで約165体の人形たちの80年ぶりの再会が実現します。また答礼としてアメリカに渡った日本人形のうち、長崎県が贈った「長崎瓊子」がアメリカから帰郷します。時代の流れのなかで人形たちはその一体、一体が様々なドラマを持っています。そのドラマを通して、改めて日米両国の友好はもとより、未来を担う子供たちの国際交流、世界の平和の大切さについて考える展覧会です。また、懐かしい雰囲気をお楽しみいただく昭和の再現コーナー、数々のイベントを開催いたします。

2007年4月7日(土) - 6月10日(日)

※4月17日(火)、5月15日(火)、6月5日(火)は休館日です。

長崎歴史文化博物館 3階企画展示室

- 開館時間 午前8時30分～午後7時(最終入館 午後6時30分)
- 観覧料 大人800円(640円) 高校生600円(480円)
小中学生 無料
※()は前売り、15名様以上の団体料金



全国から80年ぶりに165体が再会!!
セラピストの日米交流史
青い目の人形と長崎瓊子展
あれから80年、きずな未来へ

「エレン、C」
平戸市立平戸幼稚園蔵

報告

第35回長崎県新人演奏会オーディション
優秀賞11人が演奏会に出演



審査発表後の緊張と喜びの受賞者達(2月16日 とぎつカナリーホール)写真提供:長崎新聞社

本県クラシック音楽家の登竜門「第35回長崎県新人演奏会」のオーディションが2月15、16日とぎつカナリーホールで開かれました。この演奏会は昨年から大阪シンフォニー交響楽団の大山平一郎氏を審査委員長に招聘、審査体制を充実、さらに本選でグランプリを新設するなど、レベルアップを図っています。

今年のオーディションには、声楽、ピアノ、管楽器、弦楽器、ギター、5部門に、14歳から44歳までの計60人が応募、あこがれの長崎ブリックホールの大舞台を目標に競われました。

結果は、声楽4人、ピアノ3人、管楽器4人の11人が優秀賞。今年から審査員となった日本のトップピアニストの伊藤恵さんからは、「皆さんの水準の高さに驚きました。オーディションには運もありました。受賞できなかった人も、さらに練習して、来年も再挑戦して下さい」と励ましのコメントが寄せられました。また、新設のとぎつカナリー賞には、濱口知紗子さん(サクソフォーン)が選ばれました。

Result of Audition

優秀賞受賞者

- | | | |
|-------------------|-------------------|-----------------|
| ◆高石 浩 貴 (サクソフォーン) | ◆川崎 絵里子 (ソプラノ) | ◆吉田 瞳 (ソプラノ) |
| ◆永田 美音 (ピアノ) | ◆濱口 知紗子 (サクソフォーン) | ◆田中 南美 (クラリネット) |
| ◆山口 律子 (ソプラノ) | ◆西田 祐樹 (バロン) | ◆樋上 裕子 (ピアノ) |
| ◆森 あづみ (ピアノ) | ◆田邊 亜子 (フルート) | (演奏会出演順) |

奨励賞受賞者

- | | | | |
|-----------------|------------------|--------------|--------------|
| ◆藤山 耀 (ヴァイオリン) | ◆松崎 奈美 (トランペット) | ◆新井 友梨 (ピアノ) | ◆原 菜津子 (ピアノ) |
| ◆牧瀬 沙耶 (ソプラノ) | ◆丸本 弓恵 (ホルン) | ◆朝永 真由 (ピアノ) | ◆吉田麻衣子 (ピアノ) |
| ◆小田 智子 (クラリネット) | ◆森下 瑤子 (サクソフォーン) | | |



NEW キリシタン文化編 別冊 総集編
【最新刊】 6 キリシタン文化の旅 長崎へのいざない
 一地域ガイドによる歴史散策アドバイス

■A 5判 ■88ページ ■600円(税込)
 ■A 2ポスター・マップ付き

長崎の遺産が語りかけてくる歴史の物語

旅する長崎学

Nagasaki Story

長崎県の歴史は、万華鏡のように多彩な輝きを放ちながら、今も人々をあの歴史の舞台へと心誘う...
 歴史ガイドブック「旅する長崎学」は、長崎県が推進する「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」から誕生したシリーズ本です。

大好評 発売中

◎ながさき歴史発見・発信プロジェクト

座長 市川 森一 氏

Message

長崎を訪れる人々を、私たちは「観光客」とは呼びません。長崎を旅する人々は、個々が「旅人」です。旅人は、それぞれが主人公のドラマの中を旅しています。

長崎の秘めたる物語を求めて旅するあなたへの、これは、ドラマ資料であり、シナリオだと思ってください。



キリシタン文化編 全5巻

世界遺産の候補となって、いま注目の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」。長崎の宝物が秘めたる歴史をひもとく「キリシタン文化」をテーマとしたシリーズです。

■A 5判 ■64ページ ■各号：600円(税込)
 ■箱装 5冊セット：3,300円(税込)

【好評ラインナップ】

- 1 長崎で「ザビエル」を探す
- 2 長崎発ローマ行き、天正の旅
- 3 26聖人殉教、島原の乱から鎖国へ
- 4 「マリア像」が見た奇跡の長崎
- 5 教会と学校が長崎の歴史を語る



たびながホームページ **旅する長崎学** 長崎県の歴史と旅の遊学サイト
 たびながモバイル 携帯電話からもアクセスできるサイト「たびながモバイル」もあります。
<http://tabinaga.jp/m>
 たびなが 検索 <http://tabinaga.jp>



前左から5人目が芝さん、6人目が作家の村田喜代子さん

第37回九州芸術祭文学賞

第37回九州芸術祭文学賞には、九州各県から295編の応募がありました。9月～10月にかけて、8県と福岡市・北九州市の10地区で地区審査を行い、地区優秀作の10編が最終選考に送られました。

長崎地区選考会は、10月に、川道岩見、小西宗十、定来文彬の3選考委員により実施され、応募32作の中から、地区優秀作「ピアネッロの月よ、月」(小林陽子)、次席「ブラック」(松田るを)、奨励賞「オキシドール」(田坂深)の3作品が選ばれました。最終選考会は、作家の五木寛之、立松和平、村田喜代子、文芸評論の秋山駿、「文学界」編集長・大川繁樹の5氏が出席して1月26日東京で開かれました。2時間余りに及ぶ熱心な討議の結果、福岡市の芝夏子さんの「ナビゲーター」が最優秀作に選ばれました。2年連続「該当なし」のあとの3年ぶりの最優秀作です。

この文学賞の最優秀賞者からは、村田喜代子さん(昭和62年)又吉栄喜さん(平成8年)、目取真俊さん(平成9年)、大道珠貴さん(平成14年)の4人の芥川賞作家が生まれるなど、全国的にも注目されている文学賞です。

長崎地区優秀作「ピアネッロの月よ、月」は最終選考で、村田喜代子さんから次のようなコメントを貰っている

「十作中、芝夏子「ナビゲーター」と小林陽子「ピアネッロの月よ、月」、幸重善爾「兵士アドフ」が残った。それぞれ読み応え



最優秀作に「ナビゲーター」(芝夏子さん・福岡市) 2年連続「該当なし」のあとの3年ぶりの最優秀作!

*平成19年度第38回文学賞作品 (小説募集要綱) 5月中旬に要綱発表。応募締切は8月31日(必着) (詳しくは、長崎文化振興課(江口まで)電話095189512762)

えのある箇所もあったが、これでもいいのかと立ち止まらせる箇所も多く、一作に絞るのが難しい。(中略)若過ぎる女性作家の奔放なデビューに拮抗して、こういう初老女性の作品も価値があるのではないかと私はそう思っています。最終的にこの作を推したが、あまりに奔放で鋭く詩的に流れて小説としてのまとまりに欠けていて、他の賛同は得られなかった。この作者は主人公の精神生活は深く書くが、実生活はすつ飛ばして書くのである。(中略)「ピアネッロの月よ、月」の作者には、もう少しだけ分別を」

ぜひ、小林さんの次作を期待します。なお、芝夏子さん、小林陽子さんの作品は、作品集の単行本に収録、販売されています。



小林陽子さん (長崎地区優秀賞受賞者)

編集後記

Editor's Postscript

音を楽しむから音楽。音という漢字を見てみると日の上に乗っている。太陽が昇り一日が始まる時音楽も始まる。今日も職場のコピー音・人の足音・電話の着信音 etc が奏でている。これをバックサウンドとして来る新人演奏会へ向けてがんばろう!(柏)

新人演奏会と音楽祭のダブルハッターで桜もつつじも置いてきぼり。そんな中でも文教編集は迫ってくる。「美は階調にあらず、乱調にあり」と、大杉榮は言ったが、山のような仕事を前に、乱調気味の体と心を支えてくれる仲間感謝しつつ、今日も大波止の夜が更ける。(江口)

67 文協 BUNKYO

Cultural Information of Nagasaki

第67号(2007)平成19年 5月発行
 発行/長崎県文化団体協議会
 住所/〒850-8570 長崎市江戸町2番13号
 長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課内
 TEL/(095)822-6049
 FAX/(095)829-2336
 編集/長崎県文化団体協議会事務局
 印刷/株式会社 昭和堂